

日々の積み重ねが非常時の安心に

長いようで短かった子どもたちの夏休みも終わり、日常が戻ってくる9月。「夏が来れば思い出すはるかな尾瀬とおい空」の歌い出しで親しまれる日本の歌曲「夏の思い出」。皆さんも夏が来るたびよみがえる夏の思い出、その風景を心に刻まれたことと思います。私も夏ならではの行事への参加や日本のメダルラッシュに沸いたパリオリンピックなど、多くの思い出の場面を心に残すことができました。

さて、毎年9月1日は「防災の日」です。近年、地震や台風、豪雨などの大きな災害がたびたび起こっています。「自分の住む地域は大丈夫だろう」と思っている、災害はいつでも起こるかわかりません。また避難訓練を重ねていても、予期しないことが起こるのが災害です。そのため、多くの時間を過ごす家庭や学校、職場などで防災について考え、行動することが大切です。災害に十分に備えるためには、災害発生時に何が起きるかを先読みすることが必要であり、ハザードマップなどを活用し、「地震や豪雨が起きたら自分の住んでいる地域はどうなるのか」「どうしたら身の安全を確保できるのか」など、日ごろからイメージしておく必要があります。特に「マイ・タイムライン(個人防災行動計画)」の



活用は有効です。これは、自分や家族が「いつ」「何を」するのかが、などの防災行動を時系列に整理してまとめるものです。取るべき防災行動を整理しておくことで、いざというときに身を守る行動を取ることにつながります。災害が発生しても慌てずに行動できるように、自分だけの行動計画を作ってみましょう。さらに、備えておきたい物や確認しておきたいことなどの基本的な項目をリストにまとめ、すべてにチェックが付くことを目標にしてはいかがでしょうか。とはいえ、張り切って完璧な防災を目指しても、心理的な負担になってしまうかもしれません。無理のない範囲で災害対策を始めましょう。市としても引き続き危機管理や地域防災力の強化に努めてまいります。

6日からは市議会9月定例会(決算議会)が開会します。決算の審査に向けて準備を進めるとともに、今後の国政の動きなどにも注目しつつ市政運営に全力で当たってまいります。

匝瑳市長 宮内康幸

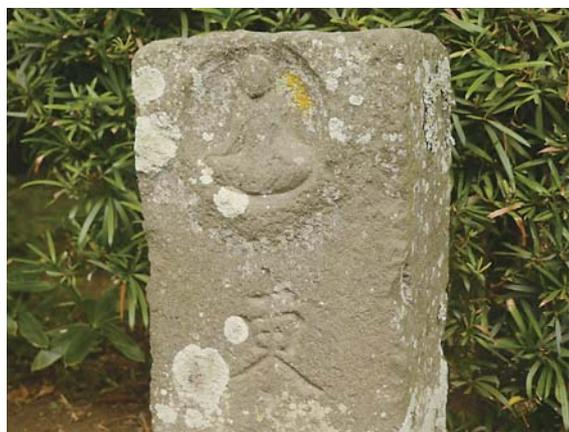
匝瑳探訪

弘法の道標

木積を歩く

市内(旧野栄町を除く)では江戸時代の道標が8基確認されています。このうち石柱上部に「弘法大師像」が彫られたものが1基あり、なぜ大師像なのか長い間疑問でした。真言宗を開いた弘法大師空海の生誕1250年を記念し、博物館や美術館などで真言宗寺院の特別展や弘法大師信仰の展示などがありました。

房総における弘法大師信仰についての解説で、四国八十八ヶ所霊場を写した「新四国八十八ヶ所霊場」が県内各所に設けられ、道標はそれに関するものとの指摘に、疑問が解けたように思



龍頭寺にある弘法の道標

いました。木積・龍頭寺境内に大師像が彫られる「弘法の道標」とも呼ぶべき道しるべがあります。高さ118cmの石柱正面上部に大師像、その下に「東 八日市場 太田(旭市) てうし(銚子)」、右側面「北 さくら(佐倉)」と造立年月日、左側面に「南 いいくら(飯倉) よこしば(横芝) 東がね(東金)」、裏面には「西 たこ(多古) さくら 江戸」と刻まれ、1793(寛政5)年2月21日に建てられたことが知られます。

東総地域の「新四国八十八ヶ所霊場巡り」は1785年に一番霊場・長禅寺(旭市野中)住職が始めたことされ、堀川西・吉祥院所蔵1852年の掛け軸(本紙令和5年4月号に掲載)には、「第85番霊場 木積 龍頭寺」とあります。龍頭寺の「弘法の道標」は、江戸時代後期に盛んとなったこの地域の新四国巡りの人たちの道しるべだったのでしよう。

同寺門前が三差路になっていて、かつてはおそらくこの辺りに建てられていたのでしょう。同寺には江戸時代後期の『図絵』にも描かれた龍神の池があり、雨乞い信仰祈願の幟旗が奉納されたとも伝わります。道標には造立者名がありませんが、同寺を信仰する人たちによって建てられたのかも知れません。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課 広報広聴班 ☎73・0080

短歌

依知川 雅一 推薦

白い花青い提灯紅の実と

変幻自在夏の鬼灯

宇野とし子

山百合のちいさな群れに蝶の舞う

静かな夏の訪れうれし

桑原 宏子

酷暑にてカブト虫まで耐えきれぬ

腹まで見せて道端に落つ

鈴木 和子

露草の青き花色きわ立ちて

心に染みる天の配剤

古谷由美子

父の背を覚えてくれたる「忍」の文字

永き一生に風の日の続く

日色 輝男

パリ五輪伝統守りし岡選手

神のご加護はつり輪の十字

大木 洋一

パリ五輪体操男子金メダル

五人の背中気迫みなぎる

高橋百合子

この数年池の牛蛙の声なくも

棲みてゐたらし三鳴きを聞けり

伊橋 良子

繁りたるチエリーセージを整へて

うつり香淡きを纏ひてをりぬ

稲葉 雪子

俳句

椿 和枝 推薦

姉住みし家このあたり凌霄花

みんみんに急かされて立つ厨かな

安藤 建子

遠雷や伊根の舟屋の観光船

喜雨落ちて菜園の時動き出す

椎名 晴江

電柱や休耕田を刈り払ふ

秋立つやしんぶんいうびんたくはいびん

山崎智恵子

白波の寄せくる如し稲の花

田草取りボトル五本の水を飲み

那須 恒雄

檀林に演奏会か蟬時雨

川柳

勝又 康之 推薦

柿熟れて今日も小鳥の集会所

実は一つ今年の猛暑庭の柿

岩井 やす

吊し柿渋い顔して甘味でる

里の柿常に長閑かな風情あり

吉井 八流

つっぺんの柿は小鳥にプレゼント

見掛けでは分からぬ人も渋柿も

熱田 和

戴いた柿の甘さに舌鼓

石田 健治 推薦

欲しいけどガマンガマンと言ひ聞かせ

暑いねと口を開けば水を飲み

須貝 玉泉



体験イベントで会計作業をする子どもたち

本市の新たな魅力を発掘する地域おこし協力隊員・北條将徳さんが、活動を通じて発見した「匝瑳の輝き」を紹介します。

同じ環境下でも、異なる問いを投げ掛ければ子どもは新鮮に伝えてくれる。大人の物差しで子どもに接しそうな自分を律しつつ、子どもの無限大の可能性を引き出す企画や環境づくりを進めたいと思います。

地域おこし協力隊員のノ
キラッとふるさと通信
No.04

子どもの“枠越え”力

7月27日に、市内事業者と共催で「子どもと大人の食“堂”体験～ぐるり食堂～」と題した食の体験イベントを開催しました。3歳から10歳までの子どもたちが集まり、お客さん役の大人に対し、オーダー取りや配膳などの仕事をしてもらいました。2時間の予定が、「まだやりたい!」とばかりに仕事を見つけ、主体的に動く子どもたち。そのエネルギーに圧倒されました。

8月18日には、匝瑳市出身で現在

ドイツにて活躍中のプロソプラノ歌手の方々や音楽体験ワークショップを開催しました。身の回りのモノをたたいて出る音を聴いたり、外に出て環境にある音を観察したり、普段と違う見方で音を観察。外歩きで自分の録音した音を持ち寄ってクイズ形式で披露したり、環境音を集めて作られた曲を聴いたりしました。参加したお子さんは、思いもよらない方法で音を出すなど、音に深い興味を示してくれました。